

おわりに

本報告書は、龍谷大学法学部の法政アクティブリサーチ第3期（2019年度後期～2020年度）の活動を報告するものである。この法政アクティブリサーチは、通常の講義とは異なり、他の受講者と議論や調整しながら自分たちでテーマを設定・調査し、さらにインタビューなどの実地調査に当たっては自ら調査先を選定し、日時や内容、そしてインタビュー方法を調整、そのうえで集団での移動・調査日程を調整・決定するなど、社会でも生きるアクティブな学びを実践することを目的としている。さらに、この学びの上で、大学内で完結するのではなく、常に社会とのつながりを維持することも目的としている。

もちろん、通常の講義に慣れている学生をいきなりこのようなアクティブな学びに移行させることは容易なことではない。そこで、今回は、全クラス共通の授業としてアクティブリサーチでの上記獲得目標を説明したうえで、各担当教員から調査活動の具体的なイメージや主体的学びの実践としてのワークショップを実施し（2019年9月25日）、そのうえで本講義を進めるうえで必要不可欠なヒアリング調査（アポイントや質問状の作成）などに関する講義と模擬実践（2019年10月30日）、アイデアの出し方や調査の方法、アイデア出しからの具体的活動の開始の方法やプレゼンに関する講義（2019年11月27日）を行っている。

これに加え、上の目的を達成するためには、社会で活動・活躍される多くのみなさまのご協力をいただいた。まず、共通講義として、本講義を過去に受講し内定をもらっている4回生のみなさんに参加いただき、就職活動の具体的な内容や意識した点、本講義の内容や目的との関連について相談会という形式でお話しいただいた。また、人事院の林美穂様（本学部卒業生）からは、「今社会が求める能力」というテーマで国家公務員の業務やキャリア、能力の形成・向上の方法などについてお話しいただいた（いずれも2019年12月7日）。いずれも通常では意識しにくい大学の出口やその先の状況、そこへの向かい方や気を付けるべき点などを伝えるだけでなく、そのことと本講義との関係を意識するよう導いてくださる貴重な内容であった。

これと並行するかたちで、各クラスはそれぞれのテーマについて調査活動を展開している。その活動内容は、本報告書の各パートを見ていただきたい。この点について、触れざるを得ないのは新型コロナウイルスの影響である。新型コロナウイルスの影響は、調査の実施や報告書作成作業など本講義の実施にも大きな影響を与えた。特に、このような状況の中、インタビュー調査などに応じていただいた関係者の皆様には心より御礼申し上げる次第である。本当にありがとうございました。また、オンラインのみでの活動に限定され、図書館の利用も制限されるなか、報告書作成に力を注いでくれた受講生の皆さんにも感謝申し上げます。

2020年7月1日 新型コロナウイルスの状況下においても変わらぬ緑が映える京都にて

担当教員を代表して 齋藤 司



龍谷大学 法学部
RYUKOKU UNIVERSITY